

絵本えらびのヒントがぎっしり

メディアバルムック

この本読んで!

お菓子の絵本

暦の絵本

二十四節気・行事

2022

冬

第85号



新連載

「カギじいさん」

富安陽子

絵本作家のブルース 長谷川義史

こんにちは! 絵本作家さん くらはしれい

子どもたちの未来と

SDGs 絵本

もう読んだ?

新刊100冊!!

対象別 おはなし会プログラム

特別付録 お役立ち! おはなし会カレンダー

特集

ティータイム へようこそ



お菓子の絵本



甘いお菓子、しょっぱいお菓子。どれも魅惑的なおいしさ。
ちょっぴり幸せな気分になれる、そんなお菓子の絵本54冊を集めました。
おはなし会の、ちょっと息抜きの1冊にもおすすめです。

『王さまのお菓子』

文／石井睦美 絵／くらはしれい
1,650円（世界文化社）
陶器でできたお人形のミリーは、お菓子屋さんにガレット・デ・ロワというパイの中に入れてられました。切り分けられたパイの中からミリーがあたった人は幸せになると言われたのですが、ミリーは不安です。



『おちやのじかんにきたとら』

作／ジュディス・カー 訳／晴海耕平
1,650円（童話館出版）
ある日、ソフィーとお母さんがお茶をしているとき、玄関のベルが鳴りました。ドアを開けてみると、大きなトラがいました。トラはお茶を一緒にさせてくれませんかと言い、家じゅうの食べものを食べつくしてしまいます。



『ウルフィーは、おかしいオオカミ？』

作／ニコラ・シニア 訳／おひかゆうこ
1,650円（ほるぷ出版）
オオカミのウルフィーは、お菓子づくりが大好き。でも、それはナイショ。オオカミのイメージに合わないからです。ところが、お菓子づくりの様子をスクープされ、大ピンチに！



新刊

『レッサーパンダのバティ りんごばたけのアップルパイ』

絵／serico 文／たきのみわこ
1,320円（白泉社）
レッサーパンダのバティはパパとママのかわりにリンゴを市場に売りに行くことになりました。ところがシロクマくんにつかって、リンゴがキズだらけに。そのリンゴを使って、一緒にアップルパイをつくります。レシピつき。



イラスト／くらはしれい

連動フェア実施！

全国の書店で「お菓子の絵本」連動フェアを開催します。詳しくはHPでご確認ください。
<https://www.jpbc.or.jp/>

著作権保護コンテンツ



『ひみつ ひみつの ひなまつり』

作／鈴木真実
1,650円（講談社）
家の押し入れから出てきたおひなさまが、十二単を身にまとったまま走ったり、トランポリンをしたり。まるで運動会？ えいちゃんとおひなさまの秘密の時間です。

『もりのひなまつり』

作／こいでやすこ
990円（福音館書店）
野ネズミにお願いされ、おひなさまが森でひな祭りを始めます。みんなで歌って踊って楽しい1日に。ところが、帰り道に泥だらけになってしまい、おひなさまが泣きだします。



弥生
(3月)



『おしょうがつのかみさま』

作／おくはらゆめ 1,430円（大日本図書）
大掃除を終えて、門松を飾り、動物たちが神さまを待っています。神さまは毎年、姿を変えてやってくる？ たこあげをしたり、おせちを食べたり。のんびり幸せな時間が流れます。



睦月
(1月)

12カ月の
行事絵本



『おひなさまの平安生活えほん』

作／ほりかわりまこ 1,650円（あすなろ書房）
おひなさまがすんでいる平安時代の京都で、ふたりの女の子が着物や食べもの、四季の楽しみを教わります。ひな祭りの由来やひな壇に置かれた道具のことも詳しく描かれています。



『ししにやいとおしょうがつ』

作／澤野秋文 1,320円（世界文化社）
今日はお正月、ピンポンとお客さまがやってきました。ドアの向こうにいたのは小さくて少し変わった獅子舞。ネコみたいな「ししにやい」と一緒に、おせちを食べてから、福笑いやタコ揚げをして遊びました。



『おばあちゃんのななくさがゆ』

作／野村たかあき
1,430円（佼成出版社）
明日は1月7日、七草の日です。きりちゃんはおばあちゃんと一緒に草を摘んで、おかゆをつくります。完成した七草がゆのおいしそうなこと！ 巻末にレシピつき。

如月
(2月)



『はるやさいの はるやすみ』

作／林 木林
絵／柿田ゆかり
1,408円（ひかりのくに）
春の野菜たちが遠足に出かけます。チョウチョに出会ったり、色とりどりのお花にうっとりしたり、春らんまんです。野菜たちの言葉の語尾に、野菜の名前が隠れています。



『さくらがさくと』

作／とうこうなりさ
1,540円（福音館書店）
いつものように人々は川沿いの桜並木を黙々と歩いています。桜のつぼみがほころぶと、人々の表情もやわらぎ始めます。ピンク色の天井、夜桜、葉桜。桜の風情がたっぷり。



『おはなみバス』

文／すとうあさえ
絵／いりやまさとし
1,045円（はるぶ出版）
リスさんがバス停で待っていると、クマさんが運転するお花見バスがやってきました。さあ、さくらやまへ出発です。ウサギさんたちも乗ってきて、お弁当も楽しみなお花見です。

卯月
(4月)

『せつぶんのひのおにいっか』

作／青山友美
1,650円（講談社）
明日は節分の日です。ふだんは人間の家でのおんきに暮らしているオニの一家が大ピンチに！ オニの父さんは「にげきりたいそう」を始めて……。いったい何が起ころのでしょうか。



『せつぶんのひのおに』

文／常光 徹
絵／伊藤秀男
1,430円（童心社）
山奥にすむオニが、器量よしのふくを嫁にとろうと、さらっていききました。村の若者はふくを取り戻すため、オニのすみかへ。おはなしは節分のかけ声の由来につながっていきます。



『せつぶんワイワイ まめまきの日！』

作／ますだゆうこ
絵／たちもとみちこ
1,540円（文溪堂）
タカシと本物のオニの子が、オニにとりつかれていじめっ子になったツヨシから、オニを追いたすために力を合わせます。その方法とは？ 節分の豆知識や料理、遊び方も満載。



『めをさませ』

作／五味太郎
1,540円(絵本館)

うっとり眠っていたら……落ちました。どんどん落ちていきます。「おーいめをさませ!」。仲間の声は聞こえているのでしょうか? 落ちている途中で気づきます。「はっ! ほくはとりだから」。そう、鳥は飛べるのです。



『ボクサッカーやめたい』

作／神山ますみ
1,650円(イマジネーション・プラス)

本当はサッカーをやめたいのだけれど、パパやママには言えません。サッカー選手になるのが夢だったパパも、お弁当をつくってくれるママも、ほくを応援してくれているからです。でも、気持ちを伝えることに決めました。



『じゃーんけん』

作／山岡ひかる
1,100円(アリス館)

ページをめくって男の子とじゃんけんぼん! どちらが勝ったかな? 続いてウサギさん、鳥さん、リスさん、ワニさん、タコさんも出てきますよ。さあ、じゃんけんぼんで遊びましょう!



『鳥は恐竜だった
鳥の巣からみた進化の物語』

作・絵／鈴木まもる
1,980円(アリス館)

鳥は、どうして空を飛べるようになったのでしょうか。なぜ恐竜は絶滅して、鳥たちは生き残ったのでしょうか。現在の巣の形に手がかりがありそうです。過酷な地球環境を生き抜いてきた鳥たちの進化の謎に迫ります。



『なぞなぞで
おぼけやしきたんけん』

文／石津ちひろ
絵／大島妙子
1,540円(アリス館)

おばあちゃんの家にやってきたふうたくんは、しゃべるネコ、からかさおぼけ、のつぺらぼうなどが出すなぞなぞに答えながら、おばあちゃんの待つ部屋へと向かいます。なぞなぞを解きながらおはなしが進んでいきます。



『バスが来ましたよ』

文／由美村嬉々
絵／松本春野
1,540円(アリス館)

全盲になった男性は、地元の小学生に助けられながらバス通勤を続けます。「バスが来ましたよ」という声は、やがてあたたかな小さな手のリレーとして、受け継がれていきました。実話をもとにしたおはなしです。



『ビーバーくんとポプラのき』

作／むらかみひとみ
1,760円(イマジネーション・プラス)

ビーバーくんの家族は湖に新しい家をつくりました。ところが、湖のまわりは木が少なくなっていました。どうしよう、木がなくなったら……。ビーバーくんたちは、森を守るために自分たちができることを考えました。



もう
読んだ?
新刊
100!!

2022年6～8月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちと素敵な時間を過ごしてください。

※出版社五十音順 ※㊦は右開きの本。

㊦マークは乳幼児から、㊦は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『うちのおかあちゃん』

作／小手鞠るい
絵／こしたミカ
1,430円(偕成社)

お母ちゃんの目は、少しずつ見えなくなってきました。まったく見えなくなったとき、お母ちゃんが「日本イチのヘレン・ケラーになる」と言った真意は? 作者が自身のお母さんを岡山井で描いています。



『かみなり』

監修・写真／武田康男
構成・文／小杉みのり
1,430円(岩崎書店)

“かみなり”って何でしょう? どうして光ったり、大きな音がしたりするのか知っていますか? かみなりは、入道雲が大きくなったかみなり雲の中で生まれます。かみなりが誕生する仕組みや光る様子がわかりやすく紹介されている写真絵本です。



『こうもり』

作／アヤ井アキコ
監修／福井 大
1,650円(偕成社)

夕暮れどきになると空を飛びまわるコウモリ。暗い夜中でも、ぶつからないで飛べるのはなぜ? 私たちの近くにいないながら、その生態はあまり知られていません。小さくて不思議な生きもの、コウモリの能力を解き明かします。



『きらきらさがし』

作／新井悦子
絵／さこももみ
1,540円(岩崎書店)

鉄棒の逆上がりの練習をして、手にまめができたあつちゃん。お母さんは、がんばった印の「きらきらじるし」と言ってくれました。がんばった人には、みんな、きらきら印があるといいます。誰に、どんな印があるのでしょうか。



『すけすけのりもの』

作／なかしまじゅんこ
1,430円(偕成社)

みぎちゃんとパパは、乗りものが透けて見える魔法のメガネを持っています。町でこのメガネをかけてみると、たくさんの人たちが宙に浮いているように見えます。町の人たちは、いったいどんな乗りものに乘っているのかな?



『いぬがほしいの!』

作／ジョン・エイジー
訳／いけもとなおみ
2,310円(潮出版社)

動物愛護センターに来た女の子は、イヌがほしくてたまりません。でも、イヌはペットにするにはもってこいだというセンターの人が連れてくるのは「え?」と驚く意外な動物ばかりです。女の子が連れて帰ったのは……。



『がっこうにまにあわない』

作／ザ・キャビンカンパニー
1,650円(あかね書房)

いそげ、いそげ! 8時まで絶対に学校に行かなくちゃ! 7時47分、玄関を飛びだして走りだしました。でも水たまりには人食いワニがいそうだし、歩道橋はぐにやぐにやしているし、いつもと違う。間に合うかなあ?!



『みそこちゃん』

作／かとうまふみ
1,540円(あかね書房)

みこちゃんは、お母さんとみそづくりを始めました。まずは大豆をやわらかくゆでてつぶします。塩と麴をまぜて、みそ玉ができたなら保存容器に入れて待ちましょう。みこちゃんはおみその赤ちゃんを見つけました。



『はだしであるく』

文／村中李衣
絵／石川えりこ
1,650円(あすなろ書房)

畑でカラスを追いかけていたら、長靴が脱げてはだしになりました。そのまま畑の外へ出てみると、素足に感じるのはアスファルトやコンクリートの上の、かたい、じんめり、じりじり熱い感覚。地球の深い場所から水の音、風の流れを体全体で感じるのです。



著作権保護コンテンツ

プログラム (各 10～15 分) 小学校高学年

1月 テーマ: 日本の伝統・文化を大切に

①『はっけよい! おせちばしょ』

文/奥原弘美 絵/柴田ケイコ
1,430円(くもん出版)

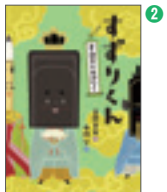
新年に食べるおせち料理を知っていますか?
黒豆、昆布巻き、だて巻きたちが、おせち場
所ではっけよい! 見返しもおもしろいで
すよ。



②『すずりくん 書道具のおはなし』

作/青柳貴史 絵/中川 学
1,430円(あかね書房)

みんなが使う書道の道具、紙・筆・墨・硯は文
房四宝といわれる宝物。一緒に文字の成り立
ちや歴史を学び、書く喜びを味わってね。見
返しの4コマ漫画は道具たちの豆知識です。



2月 テーマ: 春を待ちわびて

①『富士山うたごよみ』

短歌・文/俵 万智 絵/U. G. サトー
1,430円(福音館書店)

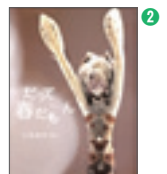
季節を彩る富士山の絵はユーモアたっぷり!
心を動かす素敵な言葉たちと友だちになっ
てね。立春のページを読んで、状況に合わせて
ほかのページや裏表紙、見返しも紹介しまし
よう。



②『だって春だもん』

写真・文/小寺卓矢
1,540円(アリス館)

静けさの中に春の息吹が感じられる写真絵本
です。やさしく、でも力強い文章に感動します。



③『はるいちばん』

作/青山友美
1,540円(講談社)

風が変わった。さあ、春の風が吹くよ!



3月 テーマ: また新しい旅が始まる

①『はっぴーなっつ』

作/荒井良二
1,540円(プロンズ新社)

四季の持つ自然の力、巡る季節を五感で感じ
ます。新しい旅に出発! コマ割りとふきだし
のセリフをゆつくりと楽しみましょう。



②『「はやく」と「ゆっくり」』

文/張 輝誠 絵/許 匡匡 訳/一青 妙
1,540円(光村教育図書)

「はやく」と「ゆっくり」、はくの心の中には時
計があります。自分のリズムを見つけて、決
めて……。はじまりの季節、春にふさわしい
絵本です。



(畠山英理子)

プログラム (各 10～15 分) 小学校中学年

1月 テーマ: 跳べ! ウサギ

①『おどりたいの』

作/豊福まきこ
1,540円(BL出版)

「踊りたい」という強い思いを胸に、バレエ教
室の扉をたたいた子ウサギ。夢を実現するま
で挑戦を続けるひたむきな姿に力をもらえ
ます。



②『おおきくなったら、
なんになる?』

作/刀根里衣
1,650円(NHK出版)

宇宙飛行士、消防士、デザイナー……。憧れ
の仕事をウサギのモカが変身しながら紹介、
きみは何にでもなれると応援してくれます。

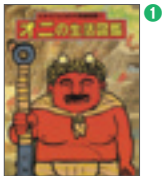


2月 テーマ: 「オニ」の暮らし

①『オニの生活図鑑』

作/ヒサクニヒコ
1,650円(国土社)

怖いけれど愛嬌があつて憎めない不思議な存
在。山オニと海オニ、衣食住などオニに関す
るエピソードが満載。ブックトークの1冊に。



②『オニのサラリーマン』

文/富安陽子 絵/大島妙子
1,540円(福音館書店)

オニガワラ・ケン、今日も出勤! 愉快地獄
の一日が関西弁でテンがよく語られ、哀愁漂
う人間くさいオニが笑いを誘います。

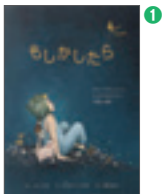


3月 テーマ: 旅立ちの季節に

①『もしかしたら maybe』

作/コピ・ヤマダ 絵/ガブリエラ・パロウチ
訳/前田まゆみ
1,650円(バイ インターナショナル)

あなたはあなたにしかできないことをするた
めにこの世界にいる。新しい環境にとまどい
不安なとき、前に進む勇気を与えてくれます。



②『きみたちにおくるうた
むすめたちへの手紙』

文/バラク・オバマ 絵/ローレン・ロング
訳/さくまゆみこ
1,650円(明石書店)

夢を追ひ求め、自分の可能性を信じようと、
子どもの未来への期待を語ります。



③『わたしはひろがる』

作/岸 武雄 絵/長谷川知子
1,870円(子どもの未来社)

人とかかわりや経験をもとに、社会や世界
へと視野を広げ、心も体もたくましく成長し
てほしい。願いをこめて届けたい1冊です。



(森本佳代子)

プログラム (各 10～15 分) 小学校低学年

1月 テーマ: お父さんの物語

①『とうさんのあしのうえて』

作/いもとようこ
1,650円(講談社)

マイナス50℃のなか、ペンギンのお父さんは
40日間、何も食わずに1個の卵をあたため続
けるというコウテイペンギンの子育ての絵本。



②『ぼくがあかちゃんだったとき』

作・絵/浜田桂子
1,320円(教育画劇)

6歳の誕生日。生まれた日から今日までの成
長の様子を話してくれたやさしいお父さん。



③『おとうさんのこわいはなし』

作/かとうまふみ
1,540円(岩崎書店)

いつも怖いお父さん。でも怖いおはなしが終
わったあとで遊んでくれるやさしいお父さん
が好き。

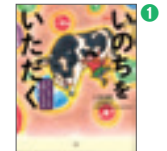


2月 テーマ: いのちを考える

①『いのちをいただく
みいちゃんがお肉になる日』

原案/坂本義喜 作/内田美智子
絵/魚戸おさむとゆかいなかまたち
1,540円(講談社)

忍くんのお父さんの仕事は食肉解体業。忍く
んはイヤでしたが仕事を理解し、お父さんを
応援します。命をいただく意味を伝える食育
絵本。



②『あなたが うまれた ひ』

作/デブラ・フレイジャー 訳/井上荒野
1,430円(福音館書店)

世界中であなたの生まれてくる日をみんなが
楽しみに待っています。



③『うまれてきてくれてありがとう』

文/にしもとよう 絵/黒井 健
1,430円(童心社)

ママを探し求める赤ちゃんの旅。



3月 テーマ: 友だちって、すばらしい!

①『ともだち』

文/谷川俊太郎 絵/和田 誠
1,320円(玉川大学出版部)

生きていくうえで友だちがいかに大切かとい
うことを教えてくれます。



②『となりのせきのますだくん』

作・絵/武田美穂
1,540円(ポプラ社)

怪獣のように見えていますだくん。でもや
さしいところに気づくみほちゃんなのです。



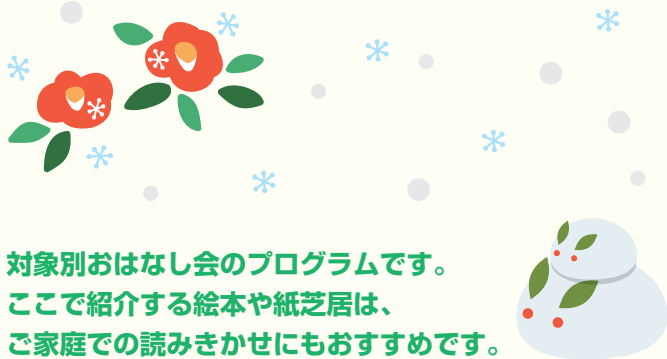
③『一ねんせいになったら』

詞/まどみちお 絵/かべやふよう
1,320円(ポプラ社)

100人の友だちと食べたり走ったり笑ったり
できる、1年生になるのが楽しみになります。



(鶴見美佐子)



対象別おはなし会のプログラムです。
ここで紹介する絵本や紙芝居は、
ご家庭での読みきかせにもおすすめです。
ブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

干支・ウサギ

『ミイラのなぞをとけ おとうとうさぎ!』

作/ヨンナ・ビョルンシェーナ
訳/ヘレン・ハルメ・美穂
1,760円(クレヨンハウス)

スウェーデンで人気の「おとうとうさぎ」シリ
ーズ最新作。今回はおばあちゃんウサギのホ
テルを舞台に、探偵として活躍します。



冬の日

『しもばしら』

作/野坂勇作
990円(福音館書店)

おばあちゃんと畑へ行って、霜柱を見つけた
は一ちゃん。おばあちゃんが、霜柱のつくり
方を教えてくれました。は一ちゃんと一緒に
みんなもつくってみませんか。



紙芝居

『きたかぜとたいよう』

脚本/こがようこ
絵/長谷川義史
1,650円(童心社)

旅人のコートを脱がせられるかどうか、北風
と太陽が力自慢を始めました。さて、結果は
どうなったでしょう。



紙芝居

『コンコンきつねのおにはそと』

脚本/よこみちけいこ
絵/石川えり子
1,540円(童心社)

子どもたちが豆まきをする様子を見ていたキ
ツネのきょうだい。「豆が食べられる!」と鬼に
化けて、子どもたちの前へ出ていきました。



紙芝居

『ずーっと ともだち』

脚本/かわしまえつこ
絵/福田岩緒
2,090円(童心社)

ネズミのネネとリスのリツは、あおぞらえん
を卒園したら別々の学校に通うことになりま
す。お別れの前にもう一度、どんぐりこうえ
んに行くことにしました。



(安富ゆかり)

くじらぐみの鳥の巣をめぐる活動

著作権保護コンテンツ

今、さまざまな
現場で
SDGsが熱い！子どもたちの未来と
SDGs絵本

SDGs（エスディージーズ）とは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、国連が2030年の達成に向けて定めた、全世界の人たちが、持続的に人間らしく生きるための、国際社会共通の17の目標のことをいいます。

今号は、東京都豊島区立目白第一保育園「くじらぐみ」の年長さんたちがつむいだ鳥の巣ものがたりをお届けします。

取材・文／小山まゆみ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

大人が言葉で伝えるより
体験することが大事

くじらぐみの鳥の巣ものがたりは、5月のある日、園庭で遊んでいたくじらぐみのひとりが、手のひらにのるくらいの小さな鳥の巣を見つけたことから始まりました。その巣をみんなの見える場所に飾り、隣には絵本作家の鈴木まもるさんが描いた鳥の巣の絵を貼りました。その後、親子で鈴木さんのファンという保護者の方が、そのことをお手紙に書いて送ると、お返事が返ってきました。鈴木さんは何の鳥の巣なのかを教えてくださいました。やがて飾っていた鳥の巣は、子どもたちが折り紙でつくった色とりどりのカラスで満員になりました。段ボールの廃材を使って大きな巣をつくと、『からのパンやさん』（偕成社）の世界を楽しむ子があらわれ、紙粘土でパンづくりをする子の姿も。それから1カ月もしないうちに、ひとりの男の子がスズメの巣を発見しました。ツバメの巣やハトの巣を見つけた子もいました。鳥博士と呼ばれる子は、おじいちゃんと一緒に巣箱をつくって

きました。絵本『鳥の巣ものがたり』（偕成社）を開き、卵の研究をした子。リアルな鳥の鳴き声をマネする子。庭に落ちているスズメの羽に気づいた子。園庭では、鳥のごっこ遊びがブームになったこともありました。興味・関心の度合いはそれぞれでも、みんなが物語の登場人物です。

都心の小さな自然の中で、深く豊かに鳥と関わったこと。知らなかったことを知る喜び。それをお友だちと共有することで、うれしさや楽しさが広がってきます。生きものに会ったとき、命の大切さを大人が言葉で伝えるよりも大事なものは、自然とふれあい、体験することです。

そうした経験や生きものを好きと思う気持ちは、環境を大事にしよう、そのために自分には何ができるのだろうという思いにつながっていくでしょう。

目白第一保育園
狩野一美先生

「くじらぐみの鳥の巣ものがたり」が生まれた、2021年度のくじらぐみ担任。ご自身も絵本が好きで、子どもたちにもたくさん絵本に出合っしてほしいという思いのもと、子どもと一緒に絵本を楽しむことを大事にしています。



鳥の巣をめぐる活動を記録したノート。身近な野鳥が減っているという新聞記事を見つけ、子どもたちと一緒に考えたとき、「人は人を大事にして、鳥のことも大事にしたい」と言った子がいました。まさにSDGsの精神そのもの！ 何げない子どもの言葉や行動に、実は深い意味があります。私たち大人は、その小さな声に、もっと耳を傾けるべきだという思いを強くしました。

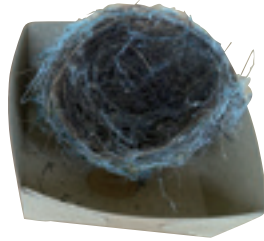


木の枝や毛糸、折り紙、紙粘土などを使って、子どもたちが鳥の巣をつくりました。本物のメジロの巣を使ったもの、スズメの巣にシジュウカラの巣、卵の形もみんな違います。



くじらぐみのみんなに届いた、鈴木まもるさんからの手紙。自分たちの興味にぴったりのお話を聞けるのがうれしくて、子どもたちの気持ちがどんどん盛り上がりました。

5/1の午後、11にちゃんか
木の下に落ちていた鳥の巣を
みつけました！



園庭で遊んでいた子が「先生、これが落ちていたの」と言って持ってきた、小さな鳥の巣。細い木の枝やひもなどでつくられていました。メジロさんの巣だったようです。



鳥と子どもへの深い愛情が感じられる、鈴木まもるさん作の鳥の絵本たち。くじらぐみのみんなと何度も読みました。



鳥の巣と折り紙のカラスと一緒に展示。巣にはひなも3羽います。くちばしに庭の桜の実をくわえさせようとした子もいました。

保育者のたまごたちと絵本

保育現場の先生たちは、養成校で絵本についてどのように学んできたのでしょうか。

埼玉福祉保育医療専門学校事例を、上條友葉さんに伺いました。取材：文／荒木晶子



学内保育室での読みきかせ。実際に子どもたちとふれあうことのできる貴重な機会です。



学生たちは、互いに読み手、聞き手となって実践しています。



授業内の模擬おはなし会は、手遊びの導入から。

著作権保護コンテンツ

子どもたちが少し成長できる絵本を いちばん上手に選べる 保育者になってほしいです

昼間・夜間の2コースで 絵本を学ぶ

埼玉県さいたま市にある埼玉福祉保育医療専門学校は、保育士や幼稚園教諭資格だけでなく、介護福祉士や社会福祉士、言語聴覚士など、いろいろな分野の資格を取ることができる専門学校です。保育士科には昼間コースと夜間コースがあり、現在は両コース合わせて126名が学んでいます。

校名のとおり、福祉の分野に重きを置いているため、点字や手話の授業があります。選択ゼミでは児童養護分野と障害児分野、子育て支援ゼミに分かれて深く研究していきます。夜間コースには社会人になってからキャリアアップで保育現場をめざす方も多く、幅広い年齢層が

通っているのも特徴です。

絵本については、昼間、夜間とも、1年生のカリキュラムで私が担当している「保育内容演習」と「保育内容総論」で教えています。子どもの理解や保育者の役割、保育計画の立て方なども含めた保育の基本を学ぶ15コマ編成の授業のうち、3コマを絵本にあてています。

「絵本とはなんだろう?」「絵本を描く人ってどんな人?」「絵本が描かれた背景を調べてみよう」などから始め、子どもたちに読みかせる絵本の選び方や、保育計画への絵本の組み込み方法などに発展させていきます。

テーマに沿った絵本選びから 指導案作成、読みきかせまで

絵本についての実習は、年齢

り、学内の保育室に週1回、近隣にお住まいの未就園児とその保護者が遊びに来てくれます。ここでは、保育士科の昼間コースの2年生で子育て支援に興味のある学生が企画・準備などから始め、保育を実践しています。その中で季節に合ったパネルシアターやエプロンシアターのほか、絵本の読みきかせも行っています。

現在はコロナ禍で縮小していますが、さいたま市の「大宮WAこうど」の会」で学生たちが近隣の親子とふれあって遊んだり、絵本の読みきかせをしたり、本学のオープンキャンパスでも絵本の読みきかせを行っています。

大人になっても 心と体に残る絵本の尊さ

私の家には、子どものころから絵本があふれていました。母も保育士で、無類の絵本好きだったのです。通っていた幼稚園にも絵本がたくさんあり、週末に借りて帰れるという環境の中で、私は絵本が好きな子どもに育ちました。

成長するにつれて絵本から離

れる時期もありましたが、思春期になって、幼いころに読んだ絵本をふと手にとったとき、まるで昔の友だちに会ったような気持ちになり、幸せな子ども時代を思い出しました。大好きな母の声で聴いたおはなしは、私の心と体のどこに残っていると感じ、そういう絵本の尊さを大人になってからますます実感しています。

今まで保育現場で出会った子どもたちにも、宝物の絵本がありました。そんな絵本に出合うきっかけに携われることに、保育者としてやりがいを感じます。

子どもの今に合った絵本を 選ぶことが大切

授業で繰り返し学生たちに伝えているのは、「保育計画を立てるときには、今の子どもたちにふさわしいものを選びなさい」ということです。

保育者は歌のお姉さんでも、アイドルでも、イベント担当者でもありません。毎日の生活の環境の一部です。教育的意図を持つて保育計画を立て、目の前にいる子どもたちが受け取りや



上條友葉
かみじょう・ともは

埼玉福祉保育医療専門学校保育士科講師。幼稚園教諭や保育士として勤務したあと、昨年より現職。担当科目は保育内容演習、保育内容総論。発達障害者支援に関する学会に複数所属。

による子どもの発達段階への理解が深まったあとに行います。「4歳児の夏に読む本」「3歳児の食事の前に読む本」などのテーマを出して、学生たちにそれぞれ絵本を用意してもらい、指導案をつくり、実際に授業で読みかかせしてもらいます。

絵本と同じように、保育者がおはなしをするものに紙芝居があります。これは舞台を使って演じ、子どもたちも一体となって心地よく味わうもの。それに対して絵本は、読み語るもので、保育者のひざの上で広げて、子どもがおはなしの世界に浸ることができるものです。この2つではおのずと読みかかせの要点も違ってくるので、別々のコマを設けて教えています。

また、本学には「エンゼルキット」という子育て支援ゼミがある。授業の中では、そのカリキュラムに沿った絵本を、私が学生たちに読みかかせもしています。たとえば、子育て支援の授業ではトイレットトレーニングに寄り添えるような絵本、障害児保育の授業ではADHDの子が主人公の絵本などです。そのときには、私も学生たちの個性を把握して、それに合わせたものを選ぶようにしています。

保育現場に出たことがない学生たちには、実際の子どもたちのイメージがなかなかつかめないことも少なくありません。そんな学生たちに、「こういう音の繰り返しが好きになってくるのが2歳だよ」などと伝えることができる絵本は、保育の優秀な教材だと思います。

学生たちには、子どもを理解して大好きになって、その子たちがちょっと成長できるよう絵本を、いちばん上手に選べる先生になってほしいと願っています。

すべての子どもたちに笑顔を 著作権保護コンテンツ

支援の必要な子 と絵本

前号に引き続き、絵本専門士の資格を持つ小児領域の言語聴覚士で、日本心身障害児協会島田療育センターの圓山哲哉さんにお話しいただきます。今回は、言語や聴覚にハンデを持つ子たちの療育現場で行われている、絵本を使ったコミュニケーション力の育み方についてお届けします。

取材・文／小山まゆみ



圓山哲哉
まるやま・てつや

社会福祉法人日本心身障害児協会島田療育センターに言語聴覚士として2010年より勤務。2019年に国立青少年教育振興機構の絵本専門士を取得し、2021年には公認心理師免許を取得。おはなし会や絵本のイベント、講習会など活動の幅を広げている。

絵本を共有することで コミュニケーションの特性を 知ることができる

お子さんと絵本を共有する場面は、言語聴覚士（以下ST＝Speech Therapist）にとって、そのお子さんのコミュニケーションの特性を知り、理解を深めることができるひとつの機会でもあります。

まず、絵本のが好きなのか、一緒に絵本を見ることができ

るのか、どのような絵本であれば興味を持ってくれるのか、といった絵本共有に對してのお子さんの様子を確認します。そして、一緒に絵本を見ることができそうであれば、読み進めていく中で、たとえば「この動物の名前はなんていうの？」と聞いたとき、名前を答えてくれるのか。それとも質問をスルーして、自分の好きなおはなしをしたり、好きなページを見ようとしているのか。その子の注意力や集中力、コミュニケーションの特性、場面に合わせて他者の意図を汲んだり、状況を理解して、望ましいふるまいや受け答えができていくか、ということなどを見せたいだく機会になるといわれます。

絵本を共有しながら コミュニケーション力を 育てる

「ことば」や「社会性」の発達に課題を抱えるお子さんたちにとって、絵本の共有はコミュニケーションの発達を促す機会になると考えています。

相手のことばを聞いて理解したり、ことばを話して相手に伝えるという言語コミュニケーション以外にも、さまざまなコミュニケーションがあります。相手と視線を合わせる「アイコンタクト」や相手と同じ対象を見る「共同注視」も重要なコミュニケーションです。また、相手とページを合わせて一緒に絵本のページを見ていくことや、指さしを使って相手に伝える・相手の質問に回答するといったことも、大切なコミュニケーションの力といえます。

小さいお子さんや、ことばの発達の前段階にいらっしゃるお子さんのなかには、読みきかせをしようとしても、絵本を見るより、ページをめくりたがるお子さんがいます。もちろん、お子さんの興味に合わせて、めくることを楽しんでいただくこともありますが、目的によってはアプローチが変わります。

たとえば、相手を意識したり、相手と興味・関心を共有するといったコミュニケーションの力につなげていきたい場合、あえてそのページにとどまり、「ここを

見てみて」と促したりします。大人側のペースに合わせて待つてもらおう場面をつくり、一緒に絵本を見てもらうこともしています。

みなさんがよくご存じの『きんぎょがにげた』（福音館書店）のように、目標のものを見つけることを楽しむ絵本（「視覚探索絵本」と呼ばれることもあります）を用い、金魚を指さして、「ここにいたね」と一緒に確認したり、お子さんに指さして「いたよ！」と伝えてもらうことももちろんですが、「わかったら、せーの！で一緒に指さしてみよう」といった機会をつくることもあります。

文字の認識が進み、ある程度絵本を読むことができるお子さんの場合は、「圓山さんがこまで読んだから、ここからは〇〇ちゃんにお願いするね」と言つて、かわりばんこに「1文ずつ読む」「1ページずつ読む」といったことを行うこともあります。自分のペースでどんどん読み進める力も大事ですが、相手を意識したり、相手に聞いてもらいながらターンテイキング（※）のように読んでいくことも、コミュニ



『きんぎょがにげた』

作／五味太郎
990円（福音館書店）

ニケーション力を育む練習になると考えられるためです。

その子が答えられる テーマに意識を向けると、 より楽しい時間に

お子さんのことばやコミュニケーションの力がどれくらいいの発達段階かにもよるのですが、大人が絵本を読み、お子さんに聞いてもらうという一方通行の関係性が苦手なお子さんは、療育の現場では少なくありません。

ですので、「ここにちよこつと見えているのは何だろうね？」「次に何が出てくると思う？」など、その子その子の言語発達段階のなかで答えられる質問をしながら読み進めていくことは、絵本共有への能動的な参加を促すために有効なケースも多いと感じています。

その子がわかることをあえて

確認したり、質問したりすることで、絵本の共有に主体的に関わってくれる、参加してくれる子はたくさんいます。答えることができて、「あ、わかった！」と自信が持てたり、「見つけた！」「うれしい！」と楽しんでもらえるように意識しながら絵本を共有することで、絵本に興味を持つてもらいやすいということは確かです。

私たちSTがお子さんに関わるうえで大事にしていることは、そのお子さんは今、何ができて何が難しいのか、何がわかっていて何がわからないのかといったことを客観的に理解する、いわ

ゆるアセスメントといわれる発達段階や特性の評価です。その子がまだ知らないことや難しいことをいきなり教えようとしたり、覚えさせようとするのではなく、その子が答えられる質問をしながら会話をしたり、考えられる内容や興味があるテーマに意識を向けることができるように促しながら絵本を共有してみてください。大人がそのように関わることで、きつと、お子さんたちがより楽しむことができる絵本共有につながるのではないかと思います。

※会話において、話し手と聞き手が随時交替して話す順番のこと



イラスト／アンヴィル奈宝子